

# 平成 28 年度 学校評価報告書

県立篠山鳳鳴高等学校

## ○ 教育方針

明治 9(1876)年、私塾篠山中年学舎の創設以来掲げられてきた「国家有為の人材育成」の抱負と、昭和 26(1951)年、「学校の教育方針と生徒の生活目標との融合一体を示すもの」として制定された“生徒信条”が、今日までの校風と本校の歩みを導いてきた。

生徒信条 「1. 勉強第一 2. 正義の実行 3. 身体の強健」

いかに時代が変わろうとも、ふるさとを愛し地域社会の発展に寄与する人間の育成、自らを鍛錬し自己実現を達成する自立した人間の育成、自立のこころを身に付け国家および国際社会に貢献できる人間の育成は、本校の使命である。

この使命を達成するため、教職員は切磋琢磨しつつ、自らの資質・能力を高め、生徒ひとり一人の確実な知識理解と豊かな心の涵養を図るとともに、地域に開かれ信頼される魅力ある学校づくりを目指す。

学校経営の重点			
番号	経営の重点		具体的な取組
①	個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養	1	「ひょうご学力向上サポート事業」や「インスパイア・ハイスクール事業」を活用し、生徒自らが積極的に言語活動や探求活動等を通じて学力向上を図るための教育環境づくりを進める。
		2	ひとり一人の能力・適正に応じた教育および学習指導を行うことにより、生徒が喜びと期待を持って登校する学校づくりを進める。
		3	スクールカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより、生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実する。
②	保護者から信頼される学校づくり	1	ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会などを通じて、保護者や市民等に対して学校行事や学年の取り組み、部活動などの計画や成果を積極的に発信する。
		2	家庭訪問や面談等を通じて学年・学級担任等と保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。
		3	総合的な学習の時間や高校生就業体験事業、科目「体験活動」等を通じて、職業研究、職業体験を積極的に進めることにより、生徒の健全な職業観や勤労観を培うとともに、進路希望の自己実現を支援する。
③	地域に信頼される学校づくり	1	市・市教育委員会、幼稚園・保育所、小・中学校等と連携し、地域で生まれ地域で育つ子供たちの最終の公立学校（公的後期中等教育機関）としての責任を果たす学校づくりを進める。
		2	学校教育全体を通じて、地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習スポーツ、PTAや地域住民と連携した地域貢献活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、地域社会の一員として積極的に生きる人材を育成する。
		3	学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育の可視化を図るとともに、地域住民の期待や要望等を教育活動に活かすことに努める。
④	教職員が自信を持って働ける学校づくり	1	教材研究・授業研究や各種研修による授業の充実を図るため、ノー残業デー、ノー会議デー、ノー部活デーを設定し、教職員ひとり一人の資質向上と心身の健康増進に努める。
		2	『シラバス』（3年間を見通した教育計画）を作成し、教職員の共通理解と教育内容の平準化を図るとともに、シラバスを生徒・保護者等へ配布、授業の公開等により、本校教育の信頼づくりに努める。
		3	教職員が互いを認め合い、気軽に相談できる職場づくりに努めることにより、教職員が自信と生き甲斐を持って働ける学校づくりを進める。

平成28年度 学校評価結果

※以下の各項目について、達成度を4段階(1でできなかった 2あまりできなかった 3まあまあできた 4よくできた)で評価しました。

1 学校経営の重点における自己評価

番号	領域	評価内容	対象となる具体的取組	結果
1		個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養	① 「インスパイア・ハイスクール事業」や「ひょうご学力向上サポート事業」を活用し、生徒自らが積極的に言語活動や探求活動等を通じて学力向上を図るための教育環境づくりを進める。	①2.8
			② ひとり一人の能力・適正に応じた教育および学習指導を行うことにより、生徒が喜びと期待を持って登校する学校づくりを進める。	②2.9
			③ キャンパスカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより、生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実する。	③2.9
2	学校経営の重点	保護者から信頼される学校づくり	① ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会などを通じて、保護者や市民等に対して学校行事や学年の取り組み、部活動などの計画や成果を積極的に発信する。	①3.1
			② 家庭訪問や面談等を通じて学年・学級担任等と保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。	②3.1
			③ 総合的な学習の時間や高校生就業体験事業、科目「体験活動」等を通じて、職業研究、職業体験を積極的に進めることにより、生徒の健全な職業観や勤労観を培うとともに、進路希望の自己実現を支援する。	③2.6
3	学校経営の重点	地域に信頼される学校づくり	① 市・市教育委員会、幼稚園・保育所、小・中学校等と連携し、地域で生まれ地域で育つ子供たちの最終の公立学校（公の後期中等教育機関）としての責任を果たす学校づくりを進める。	①2.7
			② 学校教育全体を通じて、地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習スポーツ、PTAや地域住民と連携したふるさと貢献活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、地域社会の一員として積極的に生かせる人材を育成する。	②3.1
			③ 学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育の可視化を図るとともに、地域住民の期待や要望等を教育活動に活かすことに努める。	③2.6
4	学校経営の重点	教職員が自信を持って働ける学校づくり	① 教材研究・授業研究や各種研修による授業の充実を図るため、ノー残業デー、ノー会議デー、ノー部活デーを設定し、教職員ひとり一人の資質向上と心身の健康増進に努める。	①2.0
			② シラバス（3年間を見通した教育計画）を作成し、教職員の共通理解と教育内容の平準化を図るとともに、シラバスを生徒・保護者等へ配布、授業の公開等により、本校教育の信頼づくりに努める。	②2.8
			③ 教職員が互いを認め合い、気軽に相談できる職場づくりに努めることにより、教職員が自信と生き甲斐を持って働ける学校づくりを進める。	③2.4

2 教育活動各項目における自己評価

番号	領域	重点事項	評価項目	結果	
5	学校運営	開かれた学校づくり	① 家庭や地域への情報発信 ② 地域、家庭、関係機関との連携 ③ 外部評価を活用した学校運営の推進	①3.1 ②3.0 ③2.4	
6		生徒指導	① 生徒指導方針の確立と指導体制の推進 ② 生徒の内面の理解を図る指導の工夫 ③ 学年間の連携及び家庭との連携	①2.4 ②2.6 ③2.4	
7		進路指導	① 進路指導体制の充実 ② 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 ③ 生徒の自主的な進路選択能力の育成	①2.6 ②2.6 ③2.7	
8		教職員の資質向上	① 実践的指導力の育成 ② 計画性を持った研修の充実 ③ 授業改善への取り組み	①2.5 ②2.4 ③2.6	
9		危機管理体制の整備	① 実効性のある学校防災マニュアル策定 ② 家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	①2.9 ②2.5	
10		勤務時間の適性化	① 事務の見直しと勤務の縮減 ② 会議等の精選及び短縮	①1.9 ②1.9	
11		学校運営全般	① 学校行事の充実及び精選 ② 学年・学級経営の充実 ③ 各種委員会の充実	①2.2 ②2.9 ③2.3	
12		教育課程	特色ある教育課程の推進	① シラバスに応じた適切な学習計画の推進 ② コースの特性を生かした教育課程の推進 ③ 多様な進路に対応した学習計画の推進	①2.7 ②2.4 ③2.6
13			基礎・基本の定着	① 生徒の学力の把握と評価基準の設定 ② 授業改善の推進	①2.8 ②2.9
14			個に応じた学習指導の徹底	① 評価方法の創意・工夫 ② 習熟度及び選択科目の設定による指導形態の工夫	①2.7 ②2.9
15			総合的な学習の時間	① 生徒の自主的な活動につながる学習の工夫 ② 教職員の協働体制の確立	①2.4 ②2.4
16	特別活動		① 自主的・実践的な活動の活性化 ② 学校行事の内容の充実	①2.6 ②2.5	
17	特別支援教育・保健教育		① 特別支援教育の推進 ② 課題を抱える生徒への指導体制の充実 ③ 保健教育の指導体制の充実 ④ 教育相談の充実	①2.1 ②2.4 ③2.6 ④2.7	
18	課題教育	防災・安全教育	① 命を大切にする教育の推進 ② 防災安全教育の指導体制の充実	①2.6 ②2.6	
19		人権教育	① 人権教育指導体制の確立 ② 確かな人権意識の育成	①2.7 ②2.7	
20		環境教育	① 環境教育の指導体制の充実 ② 学校美化の向上	①2.3 ②2.3	
21		学校図書教育	① 図書室の利用向上 ② 読書意識の向上	①2.2 ②2.1	
22		学校の個性化・特色化	① 研究指定事業（インスパイアハイスクール・ふるさと貢献事業 等）の推進 ② 外部講師の活用	①2.7 ②2.8	

○ 各部・学年の振り返り

総務部							
①	②	③	④	重点事項	具体的な取組	今年度の中間報告	今年度の振り返りと次年度への展望
			○	各部と各学年との連絡・調整に努め、より円滑な校務運営を図る。	各委員会、各学年会、各種委員会の連絡・調整を綿密に行い、効率の良い校務運営ができるようにする。	校務運営委員会や職員会議の前に協議内容の調整を行い、円滑な校務運営を図っている。	校務運営委員会や職員会議の議題の整理や準備、記録などをしっかりと行えた。さらに効率化を図り、確実かつ迅速に連絡・調整ができるようにしたい。
	○		○	学校行事の精選と内容の充実を図る。	月間行事計画を2ヶ月前には、全職員に提示する。次年度の年間行事計画については、今年度の点検・反省をもとに作成をする。	月間行事計画は2ヶ月前に全職員に提示し、1ヶ月前に変更・追加を反映した改訂版を出すことができています。	各部と各学年との連携し、早期に行事計画を作成できた。教室掲示等で生徒への周知もはかれた。学校行事の精選には課題が残った。
		○	○	PTA、地域社会との連携を一層密にし、開かれた学校づくりに努める。	PTA、地域社会との連携をし、体育祭、文化祭、校内長距離走大会等の学校行事の運営ができるようにする。	PTA総会、役員会、幹事会、各委員会には職員が出席している。また、体育祭、文化祭、ボランティアデイなどでPTAの協力を得ることができた。	体育祭、文化祭などの学校行事等で、PTAと連携を深めることができた。地域社会との連携は十分にできなかった。
	○			高校生ふさと貢献事業等を推進し、体験学習をはじめとして国際理解を深める。	篠山の郷土芸能であり文化財である「デカンショ節」の継承と広報活動を行う。中国やアメリカのワラワ市との交流を進める。	デカンショバンドを中心として、「デカンショ節」の広報活動を行うことができた。アメリカのワラワ市、韓国、中国との交流を行うことができた。	インターアクト部を中心に地域貢献活動を行い、また、国際理解を深める活動を行うことができた。委員会を定期的に関き、各担当者と調整しながら進める必要がある。
		○	○	早期に学校危機管理マニュアルを作成し、全職員に周知徹底を図る。	7月には火災、12月には地震について防災訓練を実施し、防災、危機管理への意識を高める。	4月には学校危機管理マニュアルを作成し、職員の意思統一を図ることができた。7月には火災の防災訓練を実施し、12月には地震の防災訓練をする予定である。	学校危機管理マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、7月には火災、12月には地震から火災の防災訓練を行うことができた。
		○	○	本校の教育方針や教育内容のPRIに努める。	オープンハイスクールの開催、ホームページの更新や学校通信の発行を通じて広報活動に努める。オープンハイスクールについてはインターネットを利用した申し込みを実施する。	7月と8月にオープンハイスクールを実施し、無事終了することができた。また、各学年、部署との連携を取り、ホームページの更新を出来るだけ早く行えるように努力している。	7月と8月にオープンハイスクールを開催し多くの中学生や保護者の参加を得ることができた。ホームページの更新を迅速に行えるよう努めた。
		○		環境美化活動を積極的に推進し、学習環境の保持・向上に努める。	掃除の重点箇所を見直し、適切な清掃計画を立て、必要な用具の補充を行う。また、年度末に全教室のワックスがけを行う。	清掃用具の点検、清掃区域の割り当てを行った。オープンハイスクールなどの学校行事の前にボランティアを中心に清掃を行う計画を立て実施した。	平常の校舎内の清掃に加え、学校行事の前には、グラウンドなどの外回りの清掃を行った。次年度は大掃除として定着させていきたい。
	○			自学自習、および読書や研究にふさわしい環境の整備と維持に努める。	図書委員の活動を通して、定期的な掲示物の発行、本の紹介カードなどの作成を行い、読書推進に取り組む。	県立図書館の団体貸出を利用し、一時的に必要な分野の本を増やすことで、授業での図書館活用を行った。	図書委員とともに図書室の環境整備や読書推進に取り組めた。また、今後も教科や学年と連携して授業での図書室活用を行い、生徒の図書室利用のきっかけ作りをしたい。
	○			人権教育を通して、命と人権を尊重しあう態度の育成に努める。	学年ごとに発達段階に応じた人権目標を設定して、人権HR等を取り組ませる。地域の人権問題の歴史を理解するため、外部から講師を招いて、教員研修会を実施する。	学年ごとの発達段階に応じた人権HRを実施している。LGBTIに関する教育研修を行った。その他の研修は計画中である。委員会活動ができない期間が続く、具体的な取り組みできていない。	自尊感情の育成、共生社会への理解といったテーマに則した人権HRを外部講師を招くなどして実施することができた。来年度は教員研修を充実させたい。

教務部							
①	②	③	④	重点事項	具体的な取組	今年度の中間報告	今年度の振り返りと次年度への展望
○	○		○	授業時間数の確保をする。	考查日の設定などで確保できるようにしている。	確保はできている。次年度も同様に進めたい。	考查日の設定などでより一層確保できる。
	○		○	教育課程の編成について、選択科目数、講座編成の見直しをする。	選択科目について今後のベースとなるように開講を検討している。	来年度以降を見通して開講講座を検討した。	開講講座の見直しは引き続き行う。
		○	○	中学校教員、中学校保護者へのアピール	6月に中学校教員対象の説明会を行った。11月頃に公開授業を行う予定。	11月第1週に授業公開を行った。	授業公開期間を長めにとりたい。
		○	○	研究指定「ひょうご学力向上サポート事業」	今年度も共通テストを行う予定。昨年度は各校での分析にとどまったが、今年度は全体分析まで取り組む予定。	3学期に共通テストを行う予定。	共通テストの結果を活用したい。

生徒指導部							
①	②	③	④	重点事項	具体的な取組	今年度の中間報告	今年度の振り返りと次年度への展望
		○	○	登下校マナーの向上	交通立ち番場所の変更・人数配置の見直しを行う。自転車損害賠償保険については、PTAのご協力で全員一括加入してもらいました。	交通立ち番の場所を見直し実施している。本年に入り、交通事故4件発生、苦情6件。	交通立ち番の場所を見直し、実施した。今後、教員数の減に伴い、さらに場所、人数の配置の見直しが必要となる。本年度、交通事故7件(対車4件、対自転車3件)、苦情8件(一旦停止、並列、スマホなど)。
	○	○	○	生徒会活動の充実	生徒の自主的な活動がもっと増えるようにしていきたい。行事の内容の見直し、規約の見直しをしていく必要有り。	これまでに対面式、クラブ紹介、鳳鳴祭、球技大会の行事を終えた。他に朝のあいさつ運動や募金活動などを実施。	これまでに対面式、クラブ紹介、鳳鳴祭、秋・春の球技大会等の行事を終えた。他に朝のあいさつ運動や各種募金活動などを実施。生徒会選挙時に選挙管理委員会より
		○	○	各種生徒会行事の内容見直し		来年度の鳳鳴祭実施要項を検討中	生徒会選挙時に選挙管理委員会より
		○	○	規定集の見直し	昨年度一部見直しをおこなったが、さらに見直しを進めていきたい。	検討中です。	来年度、新規定で指導していきます。

進路指導部							
①	②	③	④	重点事項	具体的な取組	今年度の中間報告	今年度の振り返りと次年度への展望
	○	○		生徒のキャリア形成の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会&amp;ガイダンス…7月1学年・3学年実施(予定) 10月2学年実施(予定) 進路決定の各タイミングに実施し、生徒により刺激を与えたい。</li> <li>・インターンシップ…現在看護医療や公務員のインターンシップを計画。</li> <li>・公務員志望者への指導…外部団体にも委託して公務員ガイダンスを実施。6月になって新たに希望者が出るなど、スタートの遅れは気になるが、学年と連絡を密にとって指導を継続している。</li> <li>・キャリアノートの効果的な活用を計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路講演会・分野別ガイダンス」1学年：7/15実施 12/19実施予定 2学年：3学期中実施予定 3学年7/12実施</li> <li>・「ふれあい看護体験」夏季休業中の1日、19名参加。</li> <li>・県庁インターンシップ：2学期当初に1名が丹波教育事務所に1名参加。</li> <li>・「看護医療説明会」5/19、参加者：29名</li> <li>・「丹波市看護専門学校説明会」6/21、参加者：11名</li> <li>・公務員ガイダンス：志望者は6名。月に1回のペースで学習会を開催 夏季休業期間中は集中して実施。現時点で全員結果待ち。</li> <li>・民間就職指導：夏季休業期間に集中して学習会を実施。第一志望は3名とも不調に終わり、第二志望、第三志望で3名とも進路決定。</li> <li>・次年度への課題として公務員・民間就職指導は早めの指導が必要。キャリアノートの活用については年間指導計画作成時に考慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間就職は最終的に希望者3名。3名とも第一希望は不調であったが、最終的に11月までに全員が内定を決めることができた。公務員希望者は6名の希望者のうち、4名が内定を決めることができた。公務員・民間就職指導とも2学年意識付けをしていけば、生徒はかなりの力を付ける。逆に3年次で進路変更で就職に転向しても、時間が限られ、思うような結果が残せない。</li> <li>・進路講演会&amp;ガイダンスについては、特に業者や講師の選定について学年と連携を取りながら、バランスやタイミングのよい実施になるよう努める。</li> <li>・インターンシップをさらに推進していく。現状は1学年では職業人インタビュー・地域研究で全員が参加。2学年はふれあい保育で全員が参加。希望者には看護体験や県庁インターンシップを紹介しているが、次年度は希望者について民間へのインターンシップの紹介も増やしたい。</li> </ul>
	○			生徒の主体的に学ぶ姿勢の涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路閲覧室の整備(各大学の資料の仕分けなど)を少しずつ進めることができた。</li> <li>・中学校レベルの基礎事項の復習から、難関大学の受験対策に至るまでの学習ツールとして、リクルート社のスタディサプリを希望者に紹介する。現段階では希望者だけに自主学習のツールとして紹介するが、将来的は生徒の学力に応じた課題をこのアプリによって提供できるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大量に送られてくる資料に対して、整理が行き届かないのが現状。</li> <li>・進路指導室の使用状況は概ね良好。今後、利用する生徒に丁寧に対応するとともに、自ら調べたり選択したりするための情報を示すよう努めている。</li> <li>・スタディサプリについては学校申込者が13名だが、個人申込者が50名程度いる。最多利用者は三ヶ月間で70時間以上利用。近隣の氷上高校・三田松聖高校・三田学園高校は入学生徒全員に利用を義務づけている。それらの実践例を研究し、本校に実情に合った利用を促したい。</li> <li>・学習合宿、補習などの実施について工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路閲覧室には、さまざまな進路情報が集まる。それを生徒が使いやすいように、整備を行う。特に最近電子媒体が増加しているため、それに対応すべく生徒が自由に使えるパソコンを複数台設置する。</li> <li>・生徒同士で勉強や練習をするようなシステム作りができればと思う。今年度導入したスタディサプリはその目的に合致しているため、次年度は多数の生徒に利用するようにはたらかさける。</li> <li>・生徒は勉強第一・教師は授業第一。それに加えて補習の内容を充実させる。塾・予備校等のいらぬシステム構築を目指す。</li> </ul>
		○	○	生徒・保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者進路研修会…6・9・12月の3回開催予定。9月は試験的に休日開催を予定。情報会社の模試や校内進路別集会和セットの講演だけではなく、PTAに予算を組んで頂いて、有料講師を試験的に招く予定。</li> <li>・発信…今年は何んとしてでも進路だよりを発信したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者進路研修会6月(59名参加)：進学情報について</li> <li>9月(20名参加)：親子のコミュニケーションについて</li> <li>12月(1日に開催予定)：進学情報について</li> <li>9月は土曜日実施であったが、参加者が少なかった。</li> <li>・生徒への情報の発信：進路だよりを1学期に発行済み。2学期3学期はこれから発行予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部からの情報発信を年度当初に目指したが、達成できなかったのが大きな反省点である。次年度は改善したい。</li> <li>・保護者進路研修会は計画通り3回実施。9月の研修会は夏休み明けのため参加者が少なかったため、次年度は開催時期を検討する。またどのような内容がよいのか、PTA総会などでアンケートをとってみたい。講演料の発生する講師に講演を依頼したが、内容はよかった。</li> </ul>
			○	部と学年及び学年間の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大進路部会の開催について、年間計画は3回としているが、協議する必要が生じたときは、タイミングを逃さず、適宜開催する。</li> <li>・3学年団とは、内規の詳細について確認し、生徒や保護者に対して具体的にどう対応していくかについて共通理解を深める機会を適宜設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部内規の変更等で、拡大進路部会は随時開催した。</li> <li>・進路指導部内規に合理的でない部分がいくつか見られる。いくつかは変更を行ったが、今後さらなる見直しが必要であると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大進路部会は、必要に応じてその都度開催し、学年との連携に努めた。</li> <li>・進路指導部内規などが、現状と合致していない部分があったので大幅な改訂を行った。</li> </ul>

保健部							
①	②	③	④	重点事項	具体的な取組	今年度の中間報告	今年度の振り返りと次年度への展望
		○	○	学校保健活動を推進する。	・「熱中症対策」についての職員研修会を行う。 ・朝の打ち合わせ等で、注意喚起や情報提供を行う。	・「熱中症対策」についての職員研修会は、出来なかったが、朝の打ち合わせで、資料を配付し注意喚起を行った。次年度は、職員研修会を計画的に行いたい。	・「食中毒対策」、「熱中症対策」、「AED講習会」、「インフルエンザ対策」等の保健活動に対し、それぞれの研修会を通して、注意喚起や情報提供を、ていねいに行っていく。
			○	安全な学校環境を構築する。	・安全点検活動を通じて、教職員の安全意識の向上を図る。 ・生徒保健委員会の活発化を図る。	・1学期末に、安全点検活動を行った。大きい問題点はなかったが、生徒が、窓のさんにぶら下がり、窓ガラスが割れそうになった。 ・生徒保健委員会は、開催出来なかった。 ・生徒保健委員会は、開催出来なければならぬ。	・各学期に安全点検活動を行った。次年度は、職員だけではなく、生徒にも本活動をさせたい。「学校安全」について、強い意識を持たせることがねらいである。 ・生徒保健委員会は、今年度開催できなかった。次年度は、各学期に計画し開催したい。生徒の自主性を育てていく。
○	○			校内教育相談を継続的に実施する。	・積極的活用、発信をしていく。 ・保護者への呼びかけもしていく。	・積極的に活用することが出来た。引き続き今後も積極的に活用していきたい。	・キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒や保護者への教育相談活動を実施し、校内における教育相談活動の充実を図ってきたい。 ・年間2回以上のカウンセリング・マインド研修を実施し、教職員の生徒指導上の資質の向上を図ってきたい。 (能動的かつ実践的な研修の実施)
○	○		○	特別支援教育を推進する。	・教職員間で情報の共有をしていく。 ・授業や言葉のかけ方など具体的な取り組みについての職員研修会を行う。 ・中学校や地域との連携をより一層図っていく。	・今までに、委員会は、1回行った。 ・担任、コーディネーター等による観察(見立て)や収集した資料等を基に分析し、実態把握を行った。 ・個別の指導計画は、作成していない。(作成する必要がある生徒がいない。)	・今年度、委員会は、2回行った。 ・担任、コーディネーター等による観察(見立て)や収集した資料等を基に分析し、実態把握を行うことが出来た。 ・個別の指導計画は、作成する必要がある。次年度は、計画してきたい。 ・次年度は、生徒の実態把握のために、中学校や地域との連携を強化していく。

第1学年							
①	②	③	④	重点事項	具体的取り組み	今年度の中間報告	今年度の振り返りと次年度への展望
		○	○	基本的な生活習慣の確立	けじめ、あいさつ、体調管理を学年目標として、切り替えと集中、提出期限、掃除、遅刻・欠席の予防など基本的な生活態度を身につけさせる。遅刻、欠席の際は家庭とこまめに連絡を取る。	今のところ、授業は落ち着いた雰囲気、遅刻や欠席も少ない。しかしこれから学力差もさらに大きくなり学校に足が向かない生徒も出てきやすい。継続して提出物や基本的な生活習慣を徹底させ、各自が目標をもって過ごせるように支援していきたい。	3学期は寒さの影響が、やや欠席が増え挨拶の声も小さくなったが、提出物や清掃の習慣はきちんとしてきている。次年度は、提出物や基本的な生活習慣の継続指導に加え、生徒が地域の方や教員と積極的かつ適切に言葉交わらせるようになることを目標としたい。
○	○	○		基礎学力の定着	オリエンテーション合宿で中学校の復習を徹底する。 朝の小テストで知識の定着を図る。	国・数・英については毎週、朝の小テストを行い、週末課題や不合格課題の提出も義務づけている。その他の教科に於いても授業中の小テストや提出物を課し、考査前に5教科中心に補習を行っている。	毎週の小テストと週末課題で基礎学力の定着をはかり、さらに意欲のある生徒に対してはレベルアップ課題も用意した。また、考査前に少人数補習もしている。今後は「習ったことはその日のうちに復習する」ことを習慣づけ、学力の定着をはかりたい。
		○	○	部活動に加入する。	各クラス・学年集会で繰り返し呼び掛け、加入率を上げる。 部活動で集中力を養うことを目標とする。	部活動加入率は92%(運動部57%、文化部38%兼部もあり)で、1年生が大勢を占めて活躍している部活も多い。夏休みにやめる者が数名いたが、改めて、加入を促したい。	部活動に入っていない生徒には、新学年が始まるにあたって、再度、部活への加入を促したい。
		○	○	保護者・地域との連携強化	清掃ボランティア、幼稚園や小中学校との交流等を通して一員としての意識を高め、高校生活を充実させる。 三者面談や保護者会の開催などを通じ、家庭との連携を強化する。	総合的な学習の時間で「地域研究」に取り組み、地域の方から価値ある文化について学び、地元を再発見した。今後も継続的に取り組み、高校生がアイデアを発信したり地域貢献してきたい。3学期には小学生とのかかる大会を企画している。	今後も、小中学校との連携や、地域の特色・伝統の学習に積極的に取り組み、高校生が地域貢献の一端を担えるようにしたい。日常の電話連絡、三者面談、保護者会等で家庭とのパイプを太くし、意思疎通をはかりやすくしておきたい。
		○	○	学年における情報の共有	学年内で情報交換を行い、学年団や教師間で情報を共有し、指導がぶれないようにする。校内の各部とも連携し、総合的に生徒の人格を涵養する。	毎週の学年会を中心に、絶えず生徒の学習面・生活面についての情報共有を行っている。今後も指導がぶれないように各部と連携し方針を一致させて、生徒を支援していきたい。	毎週の学年会で、生徒の様子や学校行事の運営、学年としての方針や各部との連携について、意識を共有することができた。学年運営の要となる学年会を来年度も有効に機能させてきたい。
○	○			進路目標の明確化	文理選択について考えさせることを通じて、自らの進路目標を徐々に明確化するよう指導する。職業人インタビューや進路講演会を実施する。	10月末に生徒たちは文理選択について最終決定を行った。しかしまだ将来の進路が具体的に決まっていない生徒が多いので、今後、学問探究、大学見学、職業体験等、キャリア教育を充実させていきたい。	文理選択と進路分野別説明会を終え、春休みには具体的に専門学校や大学の学部案内を調べる課題を設けている。また就職・公務員学習会への参加も始まった。今後は大学見学、職業体験等を通してさらに希望進路が具体的にできるよう支援していきたい。
		○	○	安全教育の推進	朝の交通安全指導を実施し、安全に対する意識を高める。	今後とも、朝の交通安全指導等で、安全に対する意識を高める。	朝の交通安全指導や防災教育、情報モラル教育はもちろん、平日頃からHR等で生徒に呼びかけ、安全に対する意識を高める。

第2学年							
①	②	③	④	重点事項	具体的な取組	今年度の中間報告	今年度の振り返りと次年度への展望
		○	○	基本的な生活習慣の確立	・随時呼びかけを行い、安易な生活に流れないように指導していく。 ・土日に課題を課し、家庭学習の充実を図る。 ・定期テストの範囲や長期休業中の課題を早めに提示し、計画的に学習するように促す。	・各取り組みを着実にやっている。 ・3学年に向けてこれまで通りの生活習慣が保てるように指導していく。	・随時声かけを行うことにより、1学期と比較して学習態度、生活習慣に改善が見られた。 ・定期テストの範囲は2週間前に一覧を提示し、早めに学習に取り組むように促した。 ・3学年でも、入試に向けて取り組む環境を整えさせる。
	○	○	○	基礎学力の定着	・英語・国語において朝の小テストを実施している。その他の教科についても、必要に応じて授業等で小テストを実施している。 ・成績不振の生徒に対して、課題を課したり、テスト前に補習を行ったりしている。	・小テストや補習を通して、基礎的な知識を復習した。 ・夏休みに学習合宿を行った。 ・授業では難しい内容を扱う機会が増加しているが、基本的な内容についても、随時確認し、3年につなげる指導をする。	・朝の小テスト、英語においては暗唱テスト、ボキャブラリーコンテストを実施することにより、基礎的な知識を定着させた。 ・長期休業中、希望者対象に補習を実施した。 ・夏休み中に学習合宿を実施した。
	○	○		部活動に加入する。	・部活動と勉強を両立するように指導していく。	・最後まで継続するように指導する	・部活動を辞めた生徒が増加した。
	○	○	○	保護者・地域との連携強化	・夏休みに三者面談を実施する。 ・必要に応じて家庭と連絡を取り合う。 ・五月・七月に保護者会を実施し、学校での状況を保護者に伝える。	・夏休みに三者面談を行った。成績不振等、問題のある生徒に関しては、その都度、保護者を交えて面談した。	・夏休み中に三者面談を実施した。 ・必要に応じて家庭への連絡、家庭訪問を行った。 ・5月、7月に保護者会を実施した。
	○	○	○	学年における情報の共有	定期的に学年会を実施し、学年で行う指導等について話し合い、共通認識を持てるようにする。	・月曜5時間目に会議を開き、打ち合わせをするとともに、学年の課題について話し合っている。	・月曜5時間目に会議を開き、打ち合わせをするとともに、学年の課題について話し合った。
	○	○		進路目標の明確化	・進路ホームルームを通して進路に関する情報を提供する。 ・長期休業中にレポート課題を課し、進路目標の明確化を促す。	・夏休み中に進路に関する課題を課し、目標を明確にするように促した。	・夏休み中に進路に関する課題を課し、目標を明確にするように促した。 ・ホームルームや総合の時間に、自分の進路について考える機会を作った。
	○	○		安全教育の推進	随時ホームルーム等で呼びかけを行う。	・随時ホームルーム等で呼びかけを行う。	・随時、ホームルーム等で指導した。

第3学年							
①	②	③	④	重点事項	具体的な取組	今年度の中間報告	今年度の振り返りと次年度への展望
○				基本的な生活習慣の確立	あらゆる機会を通じ、努力の大切さを呼びかける。	遅刻や保健室利用も昨年度より大幅に減り、授業に集中する姿勢が確立されている。	冬場に遅刻ぎりぎりである生徒が増えたが、センター試験直前に休む生徒も少なく、規則正しい生活が送れた。
	○	○		基礎学力の定着及び向上	朝の小テスト・古典文法検定・ボキャコンの実施。	週4回的小テストや、各教科の取り組みにより着実に実力をつけていることは模試のデータからも伺える。	地道な取り組みが成果を上げたと思われる。センター試験もよくがんばった。最後まで粘り強くがんばり抜くことが大切である。
	○	○		部活動への加入・生徒会行事への積極参加	鳳鳴祭で完全燃焼するよう呼びかける。	運動部・文化部ともに引退まで頑張った。鳳鳴祭でのがんばりは観衆に高く評価された。	生徒会メンバーを中心に積極的に学校行事に参加した。140周年記念行事でもリーダーシップを発揮した。
	○	○		保護者・地域との連携強化	学級通信・学年通信の発行。学級面談の実施。	学級通信・学年通信を定期的に発行し、連携強化を図っている。欠席連絡など、常に保護者との連携を意識している。	家庭への細かい連絡を心がけ、保護者・地域との連携のもと3年間を送ることができた。
			○	学年における情報の共有	週1回の学年会で情報を共有。必要であれば随時会議を開き、情報の共有を図る。	学年のみならず、進路指導部をはじめとする専門部や、授業で関わってもらう先生とも情報の共有に努めている。	特に進路指導部との連携を強化し、進路指導を行った。情報の共有に意識的に取り組んだ。
	○	○		進路目標の明確化	進路HR・進路講演会の実施。	進路HR・講演会・面談などを通じ、各自の進路目標の明確化に努めている。	進路HRなどでの取り組みを通じ、各自の進路目標に向けがんばった。
	○	○		安全教育の推進	随時呼びかけを行う。	随時呼びかけているが、相変わらず苦情の電話が多いのが現状である。学校だけの取り組みには限界がある。	学年集会などを通じ何度も話をした。